

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年2月9日

【四半期会計期間】 第15期第3四半期（自平成27年10月1日 至平成27年12月31日）

【会社名】 株式会社セブン銀行

【英訳名】 Seven Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 二子石 謙輔

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号

【電話番号】 03(3211)3041

【事務連絡者氏名】 執行役員企画部長 山本 健一

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号

【電話番号】 03(3211)3041

【事務連絡者氏名】 執行役員企画部長 山本 健一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成26年度第3四半期 連結累計期間	平成27年度第3四半期 連結累計期間	平成26年度
		(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
経常収益	百万円	86,085	90,915	114,036
経常利益	百万円	29,829	28,922	37,038
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	18,796	19,272	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円	-	-	23,220
四半期包括利益	百万円	19,472	19,218	-
包括利益	百万円	-	-	25,597
純資産額	百万円	163,765	179,378	169,890
総資産額	百万円	940,523	991,456	856,415
1株当たり四半期純利益 金額	円	15.78	16.18	-
1株当たり当期純利益 金額	円	-	-	19.49
潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額	円	15.75	16.15	-
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額	円	-	-	19.46
自己資本比率	%	17.36	18.03	19.78

		平成26年度第3四半期 連結会計期間	平成27年度第3四半期 連結会計期間
		(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)	(自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日)
1株当たり四半期純利益 金額	円	5.36	5.48

- (注) 1. 当社及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2. 第3四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。
3. 自己資本比率は、((四半期) 期末純資産の部合計 - (四半期) 期末新株予約権 - (四半期) 期末非支配株主持分) を (四半期) 期末資産の部の合計で除して算出しております。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としておりま
す。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項は発生しておりません。また、第14期有価証券報告書（平成27年6月18日提出）に記載した「事業等のリスク」に重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の締結は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

経営成績に関する分析

（当期間の経営成績）

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の景気は、雇用・所得環境の着実な改善を背景に、緩やかな回復を続けております。

こうした環境の下、当第3四半期連結累計期間の当社連結業績は、経常収益90,915百万円、経常利益28,922百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益19,272百万円となりました。

なお、セブン銀行単体では、経常収益83,750百万円、経常利益30,211百万円、四半期純利益20,120百万円となりました。

	前第3四半期連結累計期間 （百万円）	当第3四半期連結累計期間 （百万円）	増減率（％）
経常収益	86,085	90,915	5.6
経常利益	29,829	28,922	3.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	18,796	19,272	2.5

・セブン銀行ATMサービス

当第3四半期連結累計期間も、セブン&アイHLDGS.のグループ各社内外へのATM設置推進等により、ATMをご利用いただくお客さまの利便性向上に努めました。この結果、平成27年12月末現在のATM設置台数は22,018台（前事業年度末比4.5%増）となりました。また、当第3四半期連結累計期間のATM1日1台当たり平均利用件数は100.7件（前第3四半期連結累計期間比1.6%減）、総利用件数は595百万件（同5.4%増）と推移いたしました。

なお、平成27年12月末現在の提携金融機関等は、新規提携等により前事業年度末比2社増加し596社^{（注）}となりました。

（注）J Aバンク及びJ F マリンバンクについては、業態としてそれぞれ1つとしております。

・セブン銀行金融サービス

平成27年12月末現在、個人のお客さまの預金口座数は1,536千口座（前事業年度末比9.3%増）、預金残高は3,959億円（同6.7%増）となりました。個人向けローンサービスの残高は151億円（同45.8%増）となりました。

海外送金サービスは外国籍のお客さまを中心に契約口座数・送金件数ともに順調に増加し、当第3四半期連結累計期間の送金件数は604千件（前第3四半期連結累計期間比29.2%増）となりました。

また、当社連結子会社の株式会社バンク・ビジネスファクトリーは、当社からの事務受託に加え、他金融機関からの事務受託事業を推進しております。

・海外子会社について

当社連結子会社のFCTI, Inc.の平成27年9月末現在の運営ATM台数は6,375台となりました。また、FCTI, Inc.の連結対象期間（平成27年1～9月）の業績は、経常収益59.4百万米ドル、経常利益 0.9百万米ドル、四半期純利益 0.8百万米ドルとなりました。

また、インドネシアにおいて現地企業と合併で設立した当社連結子会社のATM運営事業会社PT.ABADI TAMBAH MULIA INTERNASIONALは、平成27年8月よりATM設置を進めております。

財政状態に関する分析

総資産は991,456百万円となりました。このうちATM運営のために必要な現金預け金が694,279百万円と過半を占めております。この他、主に為替決済、日本銀行当座貸越取引の担保等として必要な有価証券が40,581百万円、提携金融機関との一時的な立替金であるATM仮払金が144,869百万円となっております。

負債は812,078百万円となりました。このうち主なものは預金であり、その残高（譲渡性預金を除く）は589,793百万円となっております。なお、個人向け普通預金残高は212,408百万円、定期預金残高は183,533百万円となっております。

純資産は179,378百万円となりました。このうち利益剰余金は111,958百万円となっております。

	前連結会計年度 (百万円) (A)	当第3四半期連結会計期間 (百万円) (B)	増減(百万円) (B) - (A)
総資産	856,415	991,456	135,040
負債	686,525	812,078	125,553
純資産	169,890	179,378	9,487

国内・海外別収支

当第3四半期連結累計期間の資金運用収支は、前第3四半期連結累計期間比634百万円増加し672百万円、役務取引等収支は同2,161百万円増加し72,742百万円、その他業務収支は同64百万円増加し133百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額 ()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	37	1	-	38
	当第3四半期連結累計期間	677	5	0	672
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	976	1	-	977
	当第3四半期連結累計期間	1,644	3	7	1,640
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	938	-	-	938
	当第3四半期連結累計期間	966	8	8	967
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	68,170	2,409	-	70,580
	当第3四半期連結累計期間	70,145	2,596	-	72,742
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	78,756	6,092	-	84,848
	当第3四半期連結累計期間	81,912	7,060	-	88,973
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	10,585	3,682	-	14,268
	当第3四半期連結累計期間	11,766	4,464	-	16,231
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	68	-	-	68
	当第3四半期連結累計期間	133	0	-	133
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	122	-	-	122
	当第3四半期連結累計期間	133	0	-	133
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	53	-	-	53
	当第3四半期連結累計期間	-	-	-	-

(注) 1. 「国内」とは、当社及び国内に本店を有する連結子会社(以下、「国内連結子会社」という。)であります。

2. 「海外」とは、海外に本店を有する連結子会社(以下、「海外連結子会社」という。)であります。

3. 特定取引収支はありません。

4. 「相殺消去額」には、「国内」、「海外」間の内部取引の相殺消去額等を記載しております。

国内・海外別役務取引の状況

当第3四半期連結累計期間の役務取引等収益は、A T M関連業務84,784百万円及び為替業務1,515百万円等により合計で前第3四半期連結累計期間比4,124百万円増加し88,973百万円となりました。役務取引等費用は、A T M関連業務14,525百万円及び為替業務862百万円等により合計で同1,962百万円増加し16,231百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額 ()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	78,756	6,092	-	84,848
	当第3四半期連結累計期間	81,912	7,060	-	88,973
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	64	-	-	64
	当第3四半期連結累計期間	76	-	-	76
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	1,230	-	-	1,230
	当第3四半期連結累計期間	1,515	-	-	1,515
うちA T M関連業務	前第3四半期連結累計期間	75,023	6,092	-	81,115
	当第3四半期連結累計期間	77,723	7,060	-	84,784
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	10,585	3,682	-	14,268
	当第3四半期連結累計期間	11,766	4,464	-	16,231
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	695	-	-	695
	当第3四半期連結累計期間	862	-	-	862
うちA T M関連業務	前第3四半期連結累計期間	9,498	3,544	-	13,043
	当第3四半期連結累計期間	10,195	4,330	-	14,525

- (注) 1. 「国内」とは、当社及び国内連結子会社であります。
2. 「海外」とは、海外連結子会社であります。

国内・海外別預金残高の状況

預金の種類別残高（末残）

種類	期別	国内	海外	相殺消去額 ()	合計
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）
預金合計	前第3四半期連結会計期間	524,761	-	-	524,761
	当第3四半期連結会計期間	589,793	-	-	589,793
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	290,186	-	-	290,186
	当第3四半期連結会計期間	330,053	-	-	330,053
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	232,977	-	-	232,977
	当第3四半期連結会計期間	259,567	-	-	259,567
うちその他	前第3四半期連結会計期間	1,598	-	-	1,598
	当第3四半期連結会計期間	172	-	-	172
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	30,760	-	-	30,760
	当第3四半期連結会計期間	20,800	-	-	20,800
総合計	前第3四半期連結会計期間	555,521	-	-	555,521
	当第3四半期連結会計期間	610,593	-	-	610,593

- (注) 1. 「国内」とは、当社及び国内連結子会社であります。
2. 「海外」とは、海外連結子会社であります。
3. 流動性預金 = 普通預金
4. 定期性預金 = 定期預金

国内・海外別貸出金残高の状況

業種別貸出状況（末残・構成比）

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）
国内	8,517	100.00	15,173	100.00
個人	8,517	100.00	15,173	100.00
法人	-	-	-	-
合計	8,517	-	15,173	-

- (注) 「国内」とは、当社及び国内連結子会社であります。また、海外の貸出金期末残高はありません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

(5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

また、当第3四半期連結累計期間において新たに確定した重要な設備計画は、次のとおりであります。

会社名	店舗名 その他	所在地	区分	設備の内容	投資予定金額 (百万円)		資金調達 方法	着手年月	完了予定年月
					総額	既支払額			
当社	本店他	東京都 千代田区他	新設	デビットカード 決済システム	1,500	310	自己資金	平成27年2月	平成28年10月

(注) 上記の金額には消費税及び地方消費税を含んでおりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,763,632,000
計	4,763,632,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,191,001,000	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
計	1,191,001,000	同左	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日	-	1,191,001	-	30,514	-	30,514

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 100	-	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,190,974,700	11,909,747	同上
単元未満株式	26,200	-	-
発行済株式総数	1,191,001,000	-	-
総株主の議決権	-	11,909,747	-

(注) 1. 「単元未満株式」欄の株式数には、当社所有の自己株式28株が含まれております。

2. 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容を確認できず、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社セブン銀行	東京都千代田区丸の内 一丁目6番1号	100	-	100	0.0
計	-	100	-	100	0.0

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（自平成27年10月1日 至平成27年12月31日）及び第3四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年12月31日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
現金預け金	600,859	694,279
コールローン	13,000	18,000
有価証券	71,853	40,581
貸出金	1 10,406	1 15,173
A T M仮払金	81,617	144,869
その他資産	10,411	12,113
有形固定資産	31,673	31,423
無形固定資産	35,625	34,405
退職給付に係る資産	60	103
繰延税金資産	951	561
貸倒引当金	46	54
資産の部合計	856,415	991,456
負債の部		
預金	501,413	589,793
譲渡性預金	760	20,800
コールマネー	-	10,000
借入金	16,000	15,025
社債	110,000	110,000
A T M仮受金	37,857	51,241
その他負債	17,890	13,397
賞与引当金	449	139
退職給付に係る負債	0	0
繰延税金負債	2,154	1,682
負債の部合計	686,525	812,078
純資産の部		
資本金	30,514	30,514
資本剰余金	30,514	30,514
利益剰余金	102,511	111,958
自己株式	0	0
株主資本合計	163,539	172,986
その他有価証券評価差額金	360	407
為替換算調整勘定	5,500	5,392
退職給付に係る調整累計額	13	32
その他の包括利益累計額合計	5,874	5,832
新株予約権	449	545
非支配株主持分	26	14
純資産の部合計	169,890	179,378
負債及び純資産の部合計	856,415	991,456

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
経常収益	86,085	90,915
資金運用収益	977	1,640
(うち貸出金利息)	809	1,485
(うち有価証券利息配当金)	129	51
役務取引等収益	84,848	88,973
(うちATM受入手数料)	81,115	84,784
その他業務収益	122	133
その他経常収益	137	168
経常費用	56,256	61,993
資金調達費用	938	967
(うち預金利息)	398	448
役務取引等費用	14,268	16,231
(うちATM設置支払手数料)	12,177	13,453
(うちATM支払手数料)	866	1,072
その他業務費用	53	-
営業経費	40,985	44,725
その他経常費用	9	69
経常利益	29,829	28,922
特別損失	180	154
固定資産処分損	180	154
税金等調整前四半期純利益	29,648	28,767
法人税、住民税及び事業税	10,575	9,610
法人税等調整額	278	106
法人税等合計	10,853	9,503
四半期純利益	18,794	19,263
非支配株主に帰属する四半期純損失()	1	8
親会社株主に帰属する四半期純利益	18,796	19,272

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	18,794	19,263
その他の包括利益	677	45
その他有価証券評価差額金	154	46
為替換算調整勘定	486	111
退職給付に係る調整額	36	19
四半期包括利益	19,472	19,218
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,473	19,230
非支配株主に係る四半期包括利益	1	11

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

連結の範囲の重要な変更

FCTI Canada, Inc.は、設立により当第3四半期連結累計期間から連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)、及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
破綻先債権額	1百万円	0百万円
延滞債権額	34百万円	44百万円
3ヵ月以上延滞債権額	- 百万円	- 百万円
貸出条件緩和債権額	- 百万円	- 百万円
合計額	35百万円	44百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
減価償却費	11,909百万円	14,041百万円
のれんの償却額	681百万円	801百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月23日 取締役会	普通株式	4,763	4.00	平成26年3月31日	平成26年6月2日	その他利益 剰余金
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	4,466	3.75	平成26年9月30日	平成26年12月1日	その他利益 剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月22日 取締役会	普通株式	5,061	4.25	平成27年3月31日	平成27年6月1日	その他利益 剰余金
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	4,764	4.00	平成27年9月30日	平成27年12月1日	その他利益 剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

1. 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

2. その他有価証券

前連結会計年度(平成27年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
株式	338	720	382
債券	70,000	70,009	8
国債	30,500	30,508	7
社債	39,500	39,501	0
合計	70,339	70,730	391

(注)非上場株式等については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当第3四半期連結会計期間(平成27年12月31日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	151	741	589
債券	38,600	38,615	15
国債	-	-	-
社債	38,600	38,615	15
合計	38,752	39,356	604

(注)非上場株式等については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、「企業集団の事業の運営において重要なものであり、かつ、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められるもの」がないため、記載しておりません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	円	15.78	16.18
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	18,796	19,272
普通株主に帰属しない金額	百万円	-	-
普通株式に係る親会社株主に 帰属する四半期純利益	百万円	18,796	19,272
普通株式の期中平均株式数	千株	1,190,983	1,191,000
(2) 潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円	15.75	16.15
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する 四半期純利益調整額	百万円	-	-
普通株式増加数	千株	2,138	2,322
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

中間配当

平成27年11月6日開催の取締役会において、平成27年9月30日を基準日とする剰余金の配当（第15期の中間配当）につき、次のとおり決議いたしました。

中間配当金額	4,764百万円
1株当たりの中間配当金	4円00銭

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 2月 9日

株式会社セブン銀行
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山田 裕行

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 梅津 広

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社セブン銀行の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社セブン銀行及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。